

2022年10月15日（土）

日本認知心理学会第20回大会
編集委員会企画WS

論文投稿・審査に関するこれまでとこれから

編集委員長 北神 慎司
(名古屋大学)

論文投稿・審査に関するこれまでの状況 (2003年～2021年)

論文投稿・審査に関するこれまでの状況

- **投稿数(掲載本数)は減少傾向**
 - 海外の雑誌への投稿を優先する傾向
 - 「認知心理学研究の査読は遅い」という一種の風評(?)

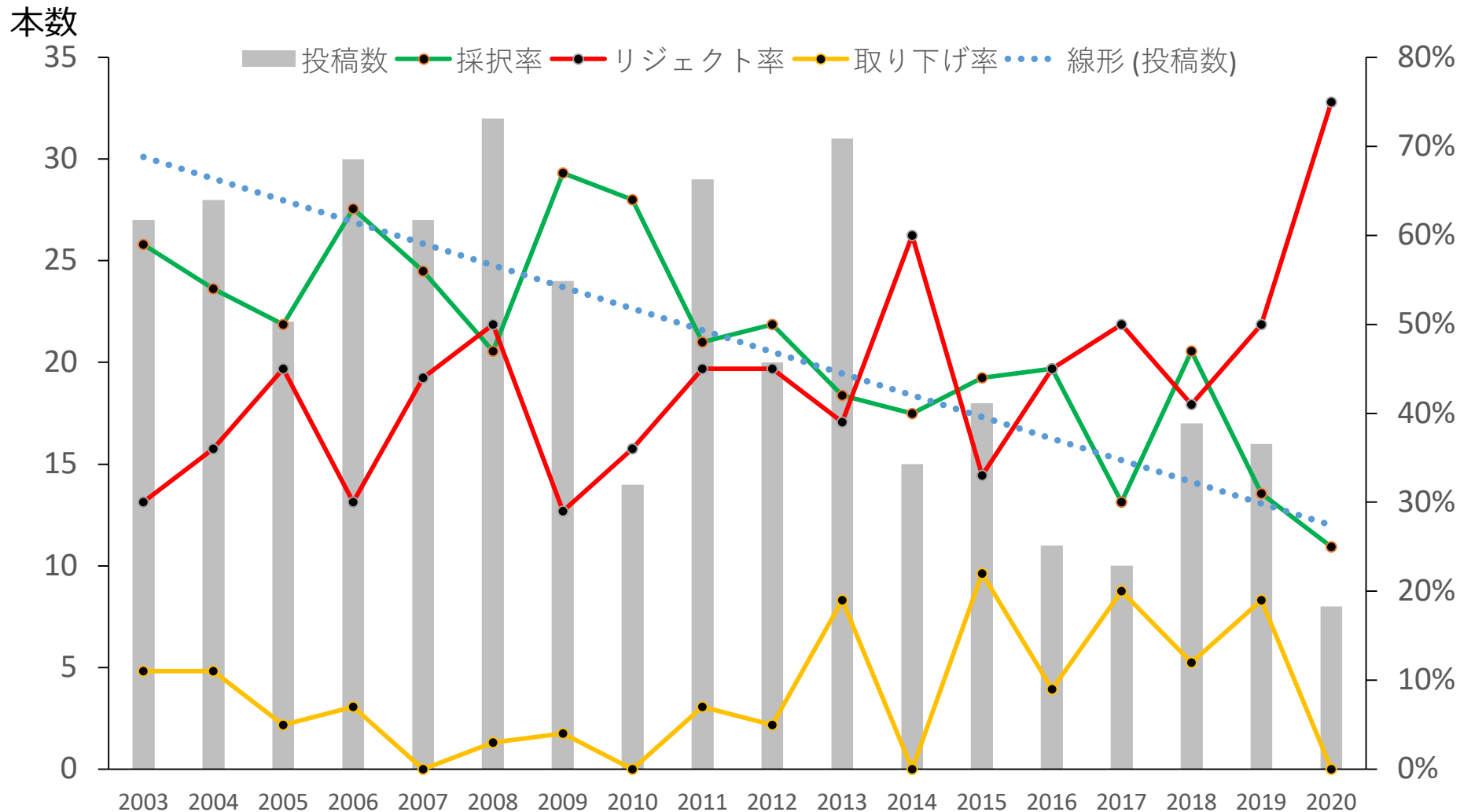
- **採択率, リジェクト率, 取り下げ率**
 - 投稿数の減少と関連するかどうかは不明だが, 採択率は若干の減少傾向が続き, 取り下げ率がやや増加している

2003年～2020年の投稿・査読状況

年	投稿数 (誤)	投稿数 (正)	採択数	リジェクト 数	取り下げ	採択率	リジェクト 率	取り下げ率
2003	27	27	16	8	3	59%	30%	11%
2004	28	28	15	10	3	54%	36%	11%
2005	22	22	11	10	1	50%	45%	5%
2006	30	30	19	9	2	63%	30%	7%
2007	27	27	15	12	0	56%	44%	0%
2008	32	32	15	16	1	47%	50%	3%
2009	24	24	16	7	1	67%	29%	4%
2010	14	14	9	5	0	64%	36%	0%
2011	29	29	14	13	2	48%	45%	7%
2012	20	20	10	9	1	50%	45%	5%
2013	31	31	13	12	6	42%	39%	19%
2014	15	15	6	9	0	40%	60%	0%
2015	18	18	8	6	4	44%	33%	22%
2016	12	11	5	5	1	45%	45%	9%
2017	10	10	3	5	2	30%	50%	20%
2018	17	17	8	7	2	47%	41%	12%
2019	16	16	5	8	3	31%	50%	19%
2020	8	8	2	6	0	25%	75%	0%
						48%	44%	9%

2003年～2020年の投稿数・査読結果

(青色の点線は投稿数の線形近似曲線)



査読プロセスの分析

- **対象**

- 2003年4月1日から2020年3月31日までに電子投稿された合計124本の論文（※2013年3月31日までの3本は含まれない）

- **大まかな結果**

- 特に、採択された論文については、大幅に査読日数が多いというわけではない

	投稿数	平均日数	最小日数	最大日数	中央値
採択	49	197	74	539	164
リジェクト	57	112	42	583	88
取り下げ	18	247	5	1,013	127

他誌との比較

(下の表は, 大上・寺田(2018)を改編して作成)

2015年度のデータ

Table 1 心理学の主要論文誌の原著論文数と掲載までの日数, 学会データ

雑誌名	論文数	平均日数(SD)	会員数	年会費	雑誌名	論文数	平均日数(SD)	会員数	年会費
応用心理学研究	16	162 (80)	1239	8000	心身医学	10	215 (137)	3085	14000
カウンセリング研究	10	615 (303)	4186	8000	心理学研究	26	238 (95)	8195	11000
家族心理学研究 (受稿日掲載なし)			921	8000	心理学評論 ※2	9	232 (106)	-	-
感情心理学研究	7	167 (33)	421	8000	心理臨床学研究	26	394 (119)	29379	9000
基礎心理学研究	4	166 (47)	711	9000	精神医学 ※2	19	144 (150)	-	-
教育心理学研究	33	351 (213)	6461	10000	青年心理学研究	4	486 (200)	368	7500
健康心理学研究	5	417 (345)	1857※	7000	生理心理学と精神生理学	3	218 (160)	580	6500
行動計量学	5	322 (249)	880	8000	動物心理学研究 (2015年度原著なし)			391	6000
行動分析学研究	2	149 (34)	1015	7000	特殊教育学研究	5	122 (175)	4116	10000
行動療法研究 (2015年度原著なし)			2259	7000	認知科学	9	261 (84)	1178	8000
産業・組織心理学研究	8	349 (107)	1164	8000	認知心理学研究	5	176 (46)	802	7000
実験社会心理学研究	5	545 (383)	626	10000	パーソナリティ研究	15	338 (192)	941	7000
社会心理学研究	10	293 (164)	1784※	8000	発達心理学研究	27	196 (65)	4259	10000
神経心理学	3	438 (186)	1693	9000					

※準会員も含む ※2 心理学評論と精神医学は発行者が学会ではないため, 会員数・年会費データはなし

引用元: 大上 真礼・寺田 悠希(2018) もういくつ寝るとアクセプト?—心理学分野の学術論文の掲載までの日数についての分析— 日本心理学会大会第82回大会発表論文集, 2.
https://doi.org/10.4992/pacjpa.82.0_1AM-002

2021年の査読状況 (採択率62.5%)

	受付番号	論文種別	ステータス	投稿日	最終操作日	日数
1	2101R1	資料	不採択	2021/2/6 0:34	2021/7/21 1:01	165
2	2102	原著	不採択	2021/4/22 2:41	2021/7/21 1:11	90
3	2103R2	展望	採択	2021/4/30 2:41	2021/11/24 8:07	208
4	2104	原著	取り下げ	2021/5/17 9:20	2021/7/16 5:17	60
5	2105R2	原著	採択	2021/5/25 10:51	2021/12/7 23:06	196
6	2106R1	原著	採択	2022/1/14 8:03	2022/2/10 4:07	199
7	2107R2	展望	採択	2021/8/9 3:12	2021/12/2 4:56	115
8	2108R2	原著	採択	2021/11/11 18:55	2022/4/5 1:00	145
				平均日数	全体	147
					採択	173
					不採択	128
					取り下げ	60

査読が遅れる要素

- **投稿者側の問題**

- 査読期間の延長申請
- 修正稿を提出しないまま放置
- 取り下げの申請をしないまま放置

- **査読者側の問題**

- 査読を断られる→別の査読者に打診することで時間がかかる
- 査読受諾の可否に関する回答が遅い
- 査読結果の回答が遅い

- **編集委員(担当委員)側の問題**

- 査読者選定に時間がかかる
- 査読結果が出揃ってから編集委員会への審査報告に時間がかかる

**生まれ変わったこと
(改革・改善したこと)**

1. 査読ポリシーの策定

• 大方針

「論文の評価は読者に委ねる」

- 査読者は「どうすれば投稿された論文を採択に導くことができるか」という視点で査読を行う
 - 担当委員も同じ視点で査読報告を吟味し、幹事会（正・副委員長、事務局）に報告する。必要があれば、査読者の報告に対して、積極的に介入をする
 - 幹事会でも同じ視点で、担当委員および査読者の報告を吟味し、必要があれば、積極的に介入をする

2. 査読の基本方針と留意点の明示

(詳細は後ほど森田先生から)

• 基本方針

1. 独自性, 貢献可能性, 有用性を見つけ出す
2. 採択可能レベルに近づけるためのコメントをする
3. 完璧を求めない
4. 不採択もやむを得ないことはある

• 留意点

- 著者へのコメントに関する留意点を具体的に記述

3-1. 査読プロセスの見直し (投稿者向け)

- **初回改稿期間にかかわる「審査手順規定」の改訂**
 - 第7条：初回の改稿期間を3週間から**4週間に延長**
- **ページ数の上限撤廃にかかわる「執筆・投稿規定」の改訂**
 - 第5条：刷り上り分量は**上限を設定しない**（ただし、目安としては10ページ程度）
 - これに関連して掲載料の減額（無償化）も議論中**決定**

査読手数料および掲載料

改訂前

改訂後

第一著者		査読事務手数料	掲載料	
			10ページ迄	11ページ以上
会員	一般	無料	2,000円	4,000円
	学生	無料	無料	2,000円
非会員	一般	10,000円	5,000円	8,000円
	学生	5,000円	2,500円	4,000円

第一著者		査読事務手数料	掲載料
会員	一般	無料	2,000円
	学生	無料	無料
非会員	一般	10,000円	5,000円
	学生	5,000円	2,500円

3-2. 査読プロセスの見直し (編集委員会において)

- **査読期間の短縮等にかかわる「審査手順規定」の改訂**
 - 第4条：査読者審議を編集委員会ではなく、**幹事会主体**で行う
 - 第10条～第12条：採否判断の期間を短縮し、委員会ではなく、**幹事会主体**で行う（1週間から3日間へ短縮）
- **担当委員，正・副委員長の積極的な介入**
 - 査読結果が分かれた場合は，できるだけ，査読継続の方向へ
 - 著者への査読報告結果は，単に二人の査読者の報告をまとめるだけでなく，積極的に介入（たとえば，相反するコメントへの対処など）
 - 場合によっては，査読者に報告結果を差し戻し

4.その他の改革

• 査読報奨金の導入

- 初回の査読において、3週間以内に査読結果が報告された場合、5,000円（相当）の報奨金

• 「講演論文」の新設

- 現在、学会の公開シンポジウムのまとめは会報に掲載されているが、その他のたとえば、学会でのシンポジウムやワークショップなどで希望があれば「講演論文」として掲載
 - テストケース：第20巻第1号に掲載済の「エピソード科学：記憶研究の新たな視点」

• J-STAGEにおける早期公開の導入

- 今後できるだけ速やかに実施する予定

(以下は、今後の議論)

• 「ショートレポート（ショートレター）」の新設

- たとえば、日本教育工学会のように刷り上がり4ページ程度の論文
- 内容は、速報性のあるもの、卒論・修論をまとめた内容、大会発表をまとめたものなどを想定
- 査読結果は2回目のターンまでに決定（実質1回の改稿のみ）